



二ツ井町に、とても元気な子どもたち(主に小学生)のよさこいチームがあります。きみまちの里フェスティバルなどに出演し、まつりやイベントを盛り上げています。代表の簾内香さんに「よさこい踊り」の魅力などを伺いました。

FUTATSUIドリームキッズ

ニツ井町の元気なよさこいチームです!!



一生懸命に練習しています!



よさこい踊りは旧天神小学校で、全校生徒による学校行事として取り入れられていました。二ツ井小学校への統合の際に、よさこい踊りを二ツ井小学校に紹介し、全町に広げていくことで町を元気にしたいという思いからチームが結成されました。

よさこい踊りの魅力は、踊る人も観る人もみんなが楽しく元気になること、チームと観客の間に一体感が生まれることです。イベントや祭りでは会場が一つになって盛り上がりがあります。また、踊りを通して、子ども同士でも仲間意識が高まりチームの心が一つになる喜びがあります。

昨年3月に結成したばかりですが、9月には横手ふるさと村で開催された「秋田よさこいキッズ祭り」に初参加し、そこでも大きな感動をもたらしてきました。

練習は週一回ですが、出演が近くなると週二〜三回になり、練習場所の確保に苦労しています。子どもたちが元氣過ぎて言うことを聞かず、まとめるのにも苦労しています。(笑)

これからも地域に密着したチームとして活動し、周辺の小・中学校からも子どもが集まり、輪が広がっていくことを望んでいます。よさこい踊りは若者にも人気がありますので、地域おこしの面からも有望と感じています。

もうすぐ合併になります。能代市民・二ツ井町民がお互いの良いところを、どんどん取り入れ、ほかの市町村民に誇れる市民になることができるように、みんなで目指していけたら良いと思っています。

のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

句碑(三) 「松尾芭蕉」(天内・白岩神社)

天内の白岩神社の鳥居の傍らにこの碑があります。草むらに隠れて見えにくく、石にはコケも生えて、文字が読みにくくなっています。小振りながら風格のある句碑です。

松杉を ほめてや風の 薫る音 翁

芭蕉は元禄七年(一六二二)に他界しますが、そのころの発句を門人各務支考が『笈日記』としてまとめていて、その中に収められた一句です。鎌倉時代の歌人藤原定家が、風が松と杉を褒めるかのように吹いていると詠った趣向を取り入れ、風を擬人化して、風の優しさ清々しさを詠ったものと評されています。天内の白岩神社の環境もその情景に似ていて、それにふさわしい句になっています。ことさらに大きく彫った「翁」の字は芭蕉のことで、俳人たちが敬意をもって芭蕉に接していることがわかります。「翁」の句碑は他所にもあります。

この句碑を建てたのは富根の山本知石です。碑の右下に知石と彫られています。富根は白岩神社の氏子圈に入り、山本家も熱心な氏子でした。自由民権運動で活躍した山本庄司の父です。庄司の子どもに野石という俳人もいて、五空とも親交がありました。(古内)

